

多文化共生事業事例集

年度

30

団体名

茨城県常総市

助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業

ジャンル

事業費総額 2,602 千円

推進体制の整備

事業名

在住外国人への定住化支援事業

特徴

外国籍住民に対する十分かつ適切な情報提供及びサポート体制の構築を目的とし、多言語に対応した生活情報ガイドブックの作成、外国人の支援者となるピアサポーターの養成講座を実施した。

事業のポイント

◇ピアサポーター養成講座については、外国人へのサポート活動を希望する方を対象とし、税金や福祉などをテーマに全12回開催し、日本及び常総市の各種制度について理解を深めていただいた。

◇ガイドブックについては、ピアサポーター養成講座で出された意見を踏まえ、外国人の方が実際に理解しにくい内容を図や解説を加えて分かりやすく掲載した。

事業の背景・目的

◇人口の7%超が外国籍住民である常総市では、市役所や一部の学校などにおいてポルトガル語やタガログ語などの通訳・翻訳サービスの提供をしているが、中国語・ベトナム語等の多言語化への対応が不十分な状況であった。

◇本市在住の外国籍住民にとってより住み良いまちにするため、外国籍住民に対する十分かつ適切な情報提供及びサポート体制の構築を目的とし、多言語に対応した生活情報ガイドブックの作成及び外国人の支援者となるピアサポーター養成講座を実施した。

事業の概要

【委託先】認定特定非営利活動法人茨城NPOセンター・ commons

1. 外国人ピアサポーター養成講座

(1)参加8名(ブラジル3名、フィリピン1名、ペルー2名、中国1名、日本1名)

(2)回数 全12回(1コマ2時間半)

(3)開催日①平成30年7月7日(土) ②平成30年7月14日(土)
③平成30年7月21日(土) ④平成30年8月4日(土)
⑤平成30年8月18日(土) ⑥平成30年8月25日(土)
⑦平成30年9月1日(土) ⑧平成30年9月15日(土)
⑨平成30年9月22日(土) ⑩平成30年10月6日(土)
⑪平成30年10月20日(土) ⑫平成30年11月3日(土)

(4)会場 常総市生涯学習センター 研修室

(5)講習テーマ ①出入手続き ②健康保険・年金 ③福祉制度
④福祉制度 ⑤教育制度 ⑥教育制度
⑦税金 ⑧税金 ⑨生活
⑩生活 ⑪防災 ⑫コミュニティ通訳

2. 常総市在住外国人のためのガイドブック作成

(1)テーマ ①生活 ②ごみの出し方 ③教育・保育 ④医療保険・年金
⑤福祉サービス ⑥税金 ⑦防災

(2)言語数 7言語(ポルトガル語、タガログ語、英語、スペイン語、中国語、ベトナム語、日本語)

3. ピアサポーターによる通訳・相談活動

(1)事業名：小学校保護者向け入学説明会での通訳(対応件数：6件)

期 日：平成31年2月8日

場 所：水海道小学校

(2)事業名：外国人のための生活相談会(対応件数：8件)

期 日：平成31年2月11日

場 所：カトリック常総協会



第1回ピアサポーター養成講座の様子



第12回ピアサポーター養成講座の様子

事業実施における工夫点・事業の成果等

◇事業実施における工夫点

・ピアサポーター養成講座終了後、ピアサポーターの活躍の場として、小学校保護者向け入学説明での通訳、外国人のための生活相談会を実施し、個別の相談対応をピアサポーターが主体となり行なった。

・ガイドブック作成にあたっては、ピアサポーター養成講座で出された意見を踏まえ、テーマ毎に特に重要と思われる内容を図や解説を加えて分かりやすく作成した。また、本ガイドブックは、製本するだけでなく、テーマ毎にA3両面に納まるように作成し、項目毎に個別で使用できるようにした。

・ピアサポーター養成及びガイドブック作成にあたり、視野拡大と知識向上を図ることを目的とし、地域独自の外国人支援を展開している先進自治体5地区への視察研修を実施した。

◇事業の成果等

平成31年4月1日施行の改正出入国管理法に伴い、更なる外国籍住民の増加及び多国籍化の進展が予想される状況の中で本事業を終了できたことは大きな成果である。

また、これまで、市役所での通訳や翻訳サービスはポルトガル語や英語に限られ、タガログ語等の翻訳や通訳ニーズへの対応が困難だったが、ピアサポーターを養成できたことで、タガログ語等の翻訳や通訳ニーズへの対応が可能になったため、市民ニーズに対応した支援の幅を広げることができた。



外国人のための生活ガイドブック

今後の課題・将来に向けての展望等

◇今後の課題

・ピアサポーター養成講座の受講者全員が、受講内容をすべて把握したとは言い難く、また、受講者によって、日本語能力や知識に差があるため、今後も継続して実施していくことが課題のひとつとなっている。

・ガイドブックについては、今後、制度の改正や担当窓口の変更があった際、再び、更新に係る翻訳費用の予算の確保が必要となってくる。また、各言語について、翻訳内容をチェックできる人材を見つけることで、各言語のガイドブックに間違いが無いようにしていきたい。

◇将来に向けての展望等

・養成講座を受講したピアサポーターが、外国籍住民から寄せられた声を関係機関に伝え、市、ピアサポーター、NPOが必要に応じてケース検討会を実施し、できることから協力して取り組んでいきたい。また、保育所など市役所以外の場所で通訳が求められた場合や、市や教育委員会の通訳では対応できない言語での通訳が求められた時などは対応できるピアサポーターを派遣できる体制を作っていきたい。

・外国籍住民が気軽に情報を得ることができるよう、市ホームページにガイドブックを掲載すると共に、市役所窓口や各種イベントにおいて周知していくことで、必要とする方への利用を促進していきたい。

事業担当者のふりかえり

⇒ピアサポーター養成講座については、限られた期間の中で参加者の確保に努めたが、参加者が少なく、また、受講者によって日本語能力や知識に差があるため、今後も継続してピアサポーターの養成を実施し、多くの国々のサポーターを増やすと共に、知識向上に努めていく必要があると感じた。

⇒作成したガイドブックについては、市ホームページに掲載したほか、市ホームページのQRコードを付したPRチラシを作成し、自治区長会や各小中学校、各種イベント時を通して配布した。外国籍住民が多い地域の区長などからは、ガイドブックをいただきたいとの要望も多く、外国籍住民だけでなく、日本人が外国籍住民とコミュニケーションを図る際にも利用していただいていることを実感した。